

# 地縁が結ばれ 広がる感謝

青葉地区あさがお自治会が行っている「あさがお会買い物ツアー」。厚別区社会福祉協議会のコーディネーター(仲介・調整)により、自治会と地域の社会福祉法人の連携が実現した生活支援事業として、全市的に注目を集めています。開始からおよそ1年半を迎えた今、この事業に関わる方々にお集まりいただき、これまでの、そしてこれからの買い物ツアーについて語り合っていました。

## あさがお会買い物ツアー

「自分のほしい物を、自分の目で見て、自分で選んで買いたい」。でも、重い荷物を持って歩くことが難しく、買い物をあきらめてしまう高齢者。そうしたニーズに応えようと、青葉地区のあさがお自治会は、2017年9月から近隣に福祉施設のある3つの社会福祉法人の協力で、月1回バスで約1km先のスーパーに出かけます。毎回約30人が参加し、買い物や車内でのおしゃべりを楽しんでいます。

【問い合わせ】

あさがお自治会会長 高橋かおるさん 892-4956



社会福祉法人栄和会  
特別養護老人ホーム  
あつべつ南5丁目開設準備室  
主任  
久慈 隆之さん



社会福祉法人ほくろう福祉協会  
特別養護老人ホーム青葉のまち  
相談支援課長  
杉田 文昭さん



社会福祉法人深仁会  
あおばデイサービスセンター  
所長  
長澤 哲幸さん



青葉町E・F団地  
あさがお自治会  
会長  
高橋かおるさん



青葉町E・F団地  
あさがお自治会  
青少年育成部長  
保田 雅子さん



社会福祉法人札幌市厚別区  
社会福祉協議会  
事務局次長  
生活支援コーディネーター  
高木 啓太



あさがお自治会役員と3社会福祉法人による座談会の様子(2019年2月5日 青葉南集会所)

「自治会の中に、買い物に困っている人がいるとわかった時、どうにかしたいとは思ったけれど、足の確保をどうしたらいいか思い浮かびませんでした。」

「バスを無料で提供してくださった社会福祉法人の協力がなければ買い物ツアーは実現しませんでした。法人の方々と、それをつないでくれた生活支援コーディネーターの高木さんには、ほんとうに感謝しています。」

「区社協から、送迎車両の空いている時間帯で、短い時間に上手く活用できる方法を提案してもらいました。ですから、あまり負担感なく参加できています。逆に地域に貢献できる良いきっかけをいただいたことに感謝しています。」

「買い物ツアーに参加している方から、『ありがたい。今後も利用させてもらいたい。』『ずっと続けていきたいね。』という声を聞いています。」

「実際に商品を見て、触れて、選んで買うことができる。私たちのような日頃から高齢者と接する立場から見ても、介護予防の面で、とても効果的なんじゃないでしょうか。」

「一緒にバスに乗って出かけるので、ツアーで初めて顔

を合わせて友達になった人たちもたくさんいます。」

「社会福祉法人から見た地域というのは、契約している利用者さんがいるところ。これまではそれ以上のつながりを感じることはありませんでした。でも今は、自治会の方の顔と名前がわかる関係になり、地域の人も交流することで、全然違う立体的な地域の姿が見えています。」

「私たちは、これまでサービスを直接提供するのが主な役割でしたが、住民主体の取組に一部でも協力するという新しい役割を経験させてもらっています。」

「初めはデイサービスの車に乗ることに抵抗のある人がいました。外から見るとはあっても、実際に乗ることはなかったですから。でも今は、買い物ツアーの朝、職員の方が私たちを待っていてくれます。挨拶もしてくれます。住民から見ても、地域の社会福祉法人や施設が身近になった気がします。」

「最初に実施するときは不安もあったけれど、まずはやってみようと思って始めました。今も続いて、皆さんから好評をいただいていることを考えると、大成功だったんだと思います。」

「今は、ほかの地域からも結構問い合わせが来ています。」

買い物ツアーの実施主体である自治会と協力機関である社会福祉法人。座談会でそれぞれの立場から語られたのは、お互いに対する感謝の言葉でした。どちらか一方の力だけではできなかったであろうこの事業が、連携と協働によって実現し、継続できているのは、お互いが「やって良かった」と感じられる「Win-Win (ウィン・ウィン)の関係」が築けているからなのでしょう。

地域のさまざまな人や団体。それぞれが持つ地域に対する想いや希望が上手く重なり合って、できることや得意なことを持ち寄れば、そこには多くの可能性が広がります。「あさがお会買い物ツアー」は、それが形となった一つの好例だといえます。

一方で、課題も出されました。住民から、「曜日が固定されているので参加できない。」「もっと回数を増やしてほしい。」といった声もあるようで、人や車など限られた資源の中でどう充実させていけるかが今後の検討事項として挙げられました。

さらに、このような動きが他の地域にも拡大していったとき、地域の社会資源としてはどこまで協力できるのか。住民と地域の社会資源それぞれの「想い」と「負担」のバランスをどう調整できるのか。地域の力が連携する上で重要な課題といえましょう。そしてそのお手伝いをするのが生活支援コーディネーターの役割です。

私たちの明日は、そんな想いや行動によって、少しずつ良い方向に向かっていくものなのかもしれません。多くの人の想いと感謝を乗せて、今月も買い物バスが走ります。

社会福祉法人ほくろう福祉協会  
特別養護老人ホーム青葉のまち  
厚別区青葉町15丁目18番1号  
TEL:011-891-7700

社会福祉法人栄和会  
法人本部  
厚別区厚別町山本750番地6  
TEL:011-896-5010

社会福祉法人深仁会  
あおばデイサービスセンター  
厚別区青葉町4丁目10番27号  
TEL:011-893-5000